

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	16-073	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Genome-wide association study of pathological gambling. 病的賭博に関するゲノムワイド関連研究		
<b>執筆者</b>		
Lang M, Leménager T, Streit F, Fauth-Bühler M, Frank J, Juraeva D, Witt SH et al.		
<b>掲載誌</b>		
Eur Psychiatry. 2016 Aug;36:38-46. doi: 10.1016/j.eurpsy.2016.04.001.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
病的賭博、アルコール依存症、ゲノムワイド関連研究		27315593
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 病的賭博は経済的、社会的、心理的な問題を伴う行動中毒である。この病気に関わる遺伝子や分子経路が明らかになれば、治療や予防につながる。初めて、このゲノムワイド関連研究で病的賭博を報告する。目的は、病的賭博に関与する分子経路とアルコール依存症と遺伝的に重複しているものがあるのかどうかを知ることである。		
<b>方法：</b> ドイツにおいて精神疾患の診断基準である DSM に従って病的賭博と認められた 445 人と 986 人をコントロールとして一般集団から集めた。ゲノムワイド関連研究によって、病的賭博を単一マーカー、遺伝子、経路解析で求めた。多遺伝子リスクスコアは、アルコール依存症のゲノムワイド関連解析の結果から求めた。		
<b>結果：</b> 病的賭博と単一マーカー、遺伝子での有意な関連は認められなかった。経路では、ハンチントン病( $p=6.63 \times 10^{-3}$ )、AMP 活性化プロテインキナーゼシグナル( $p=9.57 \times 10^{-3}$ )とアポトーシス( $p=1.75 \times 10^{-2}$ )で有意な関連が見られた。多遺伝子リスクスコアはアルコール依存症と病的賭博に片側 p 検定で有意な差が見られた。		
<b>結論：</b> 今回の研究では、先行研究と一致して非物質関連と物質関連中毒の間で遺伝子が重複していることが示された。さらに、経路解析から、ハンチントン病と病的賭博の間に共通した病状があることが示唆された。この結果は、先行の画像研究と一致している。		